小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人 洛和福祉会	代表者	矢野　一郎
事業所名	洛和小規模多機能サービス山科西野	管理者	大西ひとみ

法人・事業所の特徴	平成24年4月に開設した事業所でありご利用者もスタッフも明るい事業所です。グループとしては２番目の小規模多機能事業であり、事業所間の情報交換・連携も行えています。レクレーションや行事に力を入れており皆さん楽しんでくださっています。ご利用者やご家族の意向を大切にし、柔軟な対応や一人一人の「やってみたい！」を実現できるような支援を心掛けております。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民･地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	１人	人	人	１人	１人	人	人	人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	新規利用者の情報収集や利用開始後の新たな気付きを担当職員が中心となり共有していく。	事前に新規利用者の情報共有を行えており、ミーティングなどでも気付きを共有出来ている。	職員さんが日々の業務に追われ、記録を残しそびれた点など、記録方法の工夫改善が必要だと思います。オレンジトライアングルの活動は、西野学区にとって心強いです。	新規利用者の情報収集など、継続的に行っていく。 記録などもしっかり残し、職員間での情報共有を行う。
B．事業所のしつらえ・環境	行事担当が中心となり、玄関やフロアでも季節感が味わえるように取り組んで行く。	季節感に合わせた飾りつけが出来ており、フロア内だけではなく玄関も飾りつけを行う事で、外からも季節感を感じて頂けている。	玄関でのやり取り、玄関ドアが開いている時に「飾りつけ」が見えて日々工夫されているのが分かります。	利用者さんの得意分野を活かし、一緒に飾りつけを作成･飾りつけを行って行く。
C．事業所と地域のかかわり	オレンジトライアングルや地域の行事が再開された時や ZOOM 会議なども他の職員も参加出来るように調整する。	オレンジトライアングルの取り組みが再開し、地域行事に参加することが出来た。	対面での交流がほぼ出来ていなかった状況で、今年度はオレンジトライアングルの活動が再開されると期待しています。学区社協の行事もあるので、利用者さんと一緒に参加してください。	オレンジトライアングルの活動再開や地域行事なども利用者さんと一緒に参加していく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	情報交換の場などあれば、他の職員も参加できるようにする。	他の職員が参加することは出来なかったが、ZOOM などを用いて参加出来る環境を作っていく。	コロナ前のように少しずつ相談できる事を増やしていきたいと思います。	情報交換の場などに参加する機会を増やしていく。

E．運営推進会議を活かした取組み	地域の方と顔つなぎが出来るような取り組みに参加できるにする。	電話でご意見を伺うことはあっても、他の職員との関係性は持てる機会がなかった。	職員さんも会議に参加してもらい、顔の見える関係作りが、以前に近い形で出来たらなと思っています。	地域の方と顔つなぎが出来るような取り組みに参加できるにする。
F．事業所の防災・災害対策	地域の方にもどういった取り組みをしているかなど情報発信を行う。	必要最低限の人数で行っていた為、地域の方に参していただくことがなかった。	地域行事、防災訓練参加など、顔が見える関係が出来ていたので、現状心配なところです。 防災について地域向けに発信頂ければと思います。	地域の方にもどういった取り組みをしているかなど情報発信を行う。